

茨 智仁 議員
新国会



学園通りのさらなる整備を

Q 学園通りには幼稚園から高等学校までの教育機関が数多く存在し、まさに文教ゾーンである。学校の統廃合も進む中、これらの学校園が今のまま存在し、通学する児童生徒の安全をさらに担保するためにも、今以上に踏み込んだ整備が必要ではないか。

A 学園通り東側の歩道部について現在幅員1.5メートルから2.0メートルに拡幅し、歩道を切り下げることにより、段差構造を解消する整備工事を行っています。さらなる整備については、文教ゾーンにおける学園通りのあり方も含め、利用状況を見極めたうえで、将来的には歩行者を優先した整備も考えていきます。具体的には、通勤の車は現在整備中の福江松山線から富士見町線へ流れ、学園通りには侵入しないような整備を考えていきたいと思えます。
(建設経済部長)

質問の項目
・ 歳入確保施策について

市道文京町4号線の
早急な拡幅を

Q 旧市立病院跡地に建設を考えている集客性を有し地域交流等が図れる複合施設へのアクセス、また、駒止谷内線とのスムーズな導線の確保のためには、文京町4号線の拡幅は必須ではないか。

A 文京町4号線は、都市計画道路駒止谷内線として幅員12メートルの都市計画決定を行っており、旧市立病院跡地へのアクセスや周辺道路との接続等も考慮すると、利用計画を踏まえた道路拡幅や駒止谷内線との接続交差点の整備が必要であると考えています。
(建設経済部長)



前川 昌也 議員
市民グループ未来の会



土地改良事業補助金を増額し、農業者の負担軽減を

Q 農業振興において、水路や農道などの基盤整備は必要不可欠であるが、農業者にはかなりの負担となっていることから、土地改良事業補助金の補助率を引き上げ、負担の軽減を図るべきでは。

A 補助金を増額した場合は、農業者の負担軽減が図れ、基盤整備が促進され、遊休地の減少につながるかと考えられますが、予算の増額が伴うので、場合によっては申請に対して執行できない地区が発生することもあります。市費単独土地改良事業については、各土地改良区において協議中であり、その結果をもとに補助金の見直しを検討していきたいと考えています。また、その検討結果を踏まえ、単独県費補助土地改良事業も補助金の見直しについて検討していきたいと考えています。
(建設経済部長)



広域行政を抜本的に再考する時期にきているのでは

Q 坂出、宇多津広域行政事務組合は、全国でも稀な1市1町での広域行政事務組合だが、広域行政を再考し、定住自立圏等を締結する考えはないか。

A 本市と宇多津町は信頼関係をもって連携してきた経緯もあるため、まずは宇多津町と、ごみ処理施設の長寿命化など、将来的な財政負担の軽減に向けた協議をしていきたいと考えています。

なお、今後の協議の進展状況によっては、将来的な財政負担の軽減を図るためにも、長期的な視点に立ち、定住自立圏や連携中枢都市圏など、新たな枠組みでの広域連携を含め、あらゆる可能性を排除することなく、柔軟に検討していく必要があると考えています。
(市長)

質問の項目
・ 旧市立病院跡地の活用について
・ 学校給食について
・ 一般廃棄物の処理について